

システム生命科学府

I	教育の水準	教育 16-2
II	質の向上度	教育 16-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 伊都、箱崎、馬出、天草の4キャンパスの教員が教育を担当していることから、当該学府の全講義は対面講義のほか、4地点の遠隔双方向授業システムも用いて行っており、平成27年度の学生の授業に関する遠隔授業の満足度は対面講義と同程度となっている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- たすきがけ教育、学際教育、高度専門職業人の育成、生命倫理教育の4科目群の配置により、他領域から進学してきた学生も円滑に専門性を深められるよう努めている。
- 幅広い分野の研究者と学生との対話を含んだセミナーにより最先端の研究に関する知識の提供を行う特別講義や、プレゼンテーション能力向上のため他分野の学生や教員に向けた研究テーマの口頭発表、異分野間の交流を行う学際開拓創成セミナーを実施するなど学際教育の深化に取り組んでいる。

以上の状況等及びシステム生命科学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 論文発表数は平成22年度の39件から平成26年度の63件となっている。また、学会での学生の受賞者数は平成22年度の14名から平成26年度の22名となっている。
- 学習の達成度・満足度に関するアンケート調査の結果では、「自分の専門分野に対する深い知識や関心」、「未知の問題に取り組む姿勢」、「分析的に考察する能力」、「他人に自分の意図を明確に伝える能力」、「記録、資料、報

「報告書等を作成する能力」について、8割以上が入学時より向上していると回答している。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度の就職率は、5年一貫制博士課程である当該学府で2年次修了時に条件を満たし修士の学位を取得後退学した者は88%から93%、課程修了者は63%から100%の間を推移している。また、産業別就職状況は、修士の学位を取得し退学した者は製造業が毎年半数を占めている。
- 平成26年度の日本学術振興会特別研究員（DC1、DC2）の採択率は、DC1は約13%、DC2は約18%となっている。

以上の状況等及びシステム生命科学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

II 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 教育の質向上支援プログラム（EEP）により、研究室セミナーの英語化、アジア諸国の研究室との合同セミナー等の実践的英語教育のほか、プレゼンテーションの修正・改良を目的とする外国人講師による講義、英語による合同ラボセミナーを実施するなど教育改善に取り組んでいる。平成 27 年度はマヒドン大学（タイ）と共同で英語での教育の在り方を検討するため、国際共同サマースクールを実施している。
- 平成 25 年度文部科学省博士課程教育リーディングプログラム「持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム」の採択により、人文社会科学、生命科学、理工学を統合した教育を行っている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 学生の論文発表数は平成 22 年度の 39 件から平成 26 年度の 63 件となっている。また、学会での学生の受賞者数は平成 22 年度の 14 名から平成 26 年度の 22 名となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。